

# 環境改善を実施した林内ホダ場に伏せ込んだホダ木から発生した子実体の放射性物質濃度の変化 (4)

—伏せ込みから約4年半後(29年春子)の結果と4年間の推移—

## 1 はじめに

林内ホダ場における放射性セシウム(Cs)の影響を明らかにするため、A<sub>0</sub>層除去(以下「環境改善」)後のホダ場に放射性Cs濃度(以下「濃度」)の低いホダ木を伏せ込み、濃度の変化を調べています(林業技術情報No.54、57)。今回は、No.54の後に環境改善を行ったホダ場(No.60)で、伏せ込みから約4年半後の子実体の濃度を測定し、濃度を4年間で比較しました。

## 2 調査方法と結果

【方法】平成24年11~12月に、一関市内のアカマツ林、スギ林、広葉樹林の3調査地へ、A<sub>0</sub>層除去区と非除去区を設けました。同年12月に、ホダ木をヨロイ伏せで伏せ込みました。本数は除去区が75本、非除去区が225本です。平成29年4月下旬~5月上旬に、子実体をホダ木の上部、下部および横木に分けて採取し、乾燥、粉碎後に子実体重量の4.7倍量の水を加えて濃度を測定しました。

【結果】すべての条件を通じた最高濃度は87 Bq/kgで(スギ林・ホダ木下部から採取)、基準値(100 Bq/kg)未満でした。スギ林とアカマツ林の、除去区の平均濃度は非除去区の約1/2で(図)、A<sub>0</sub>層除去の効果が認められました。広葉樹林の除去区では子実体が発生しませんでした。子実体の濃度を、ホダ木の発生部位で比べると、スギ林ではホダ木の下部から採った子実体でやや高く、アカマツ林では同程度でした。

平均濃度を調査年で比べると、スギ林とアカマツ林では平成27年に最大値を示し、その後は漸減しました(図)。いずれの年も除去区が非除去区より低く、除去の効果が認められました。また、平均濃度は各年・各条件で基準値未満でした。広葉樹林では、濃度が全体的にスギ林やアカマツ林より低く、濃度のピーク

や除去の効果は見られませんでした。

## 3 おわりに

子実体濃度が高めなスギ林でも、環境改善の効果は、春子を4回収穫する間は続くことがわかりました。ホダ木1代の収穫期間は通常5年間なので、収穫期間の8割は効果が続いたと言えます。

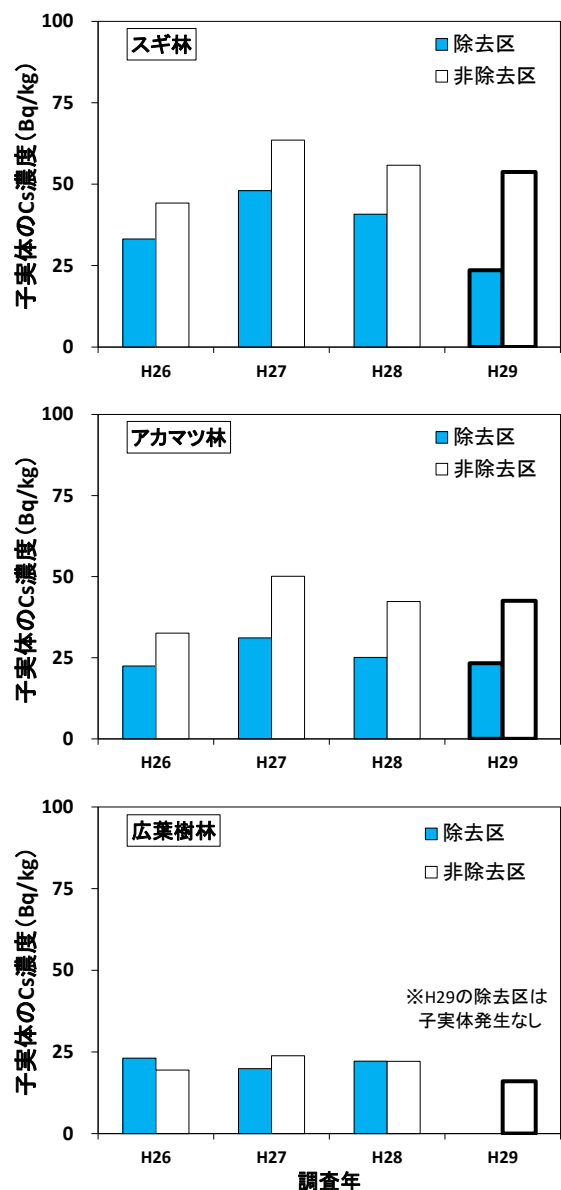


図 子実体の放射性Cs濃度の4年間の推移 (担当 研究部 上席専門研究員 成松 眞樹)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11	TEL 019-697-1536
	岩手県林業技術センター	FAX 019-697-1410
	ホームページアドレス <a href="http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/">http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/</a>	

[謝辞] 試料の測定にご協力をいただいた岩手県農業研究センター環境部の皆様に感謝します。